

滝川市の中心市街地が将来どうあるべきか

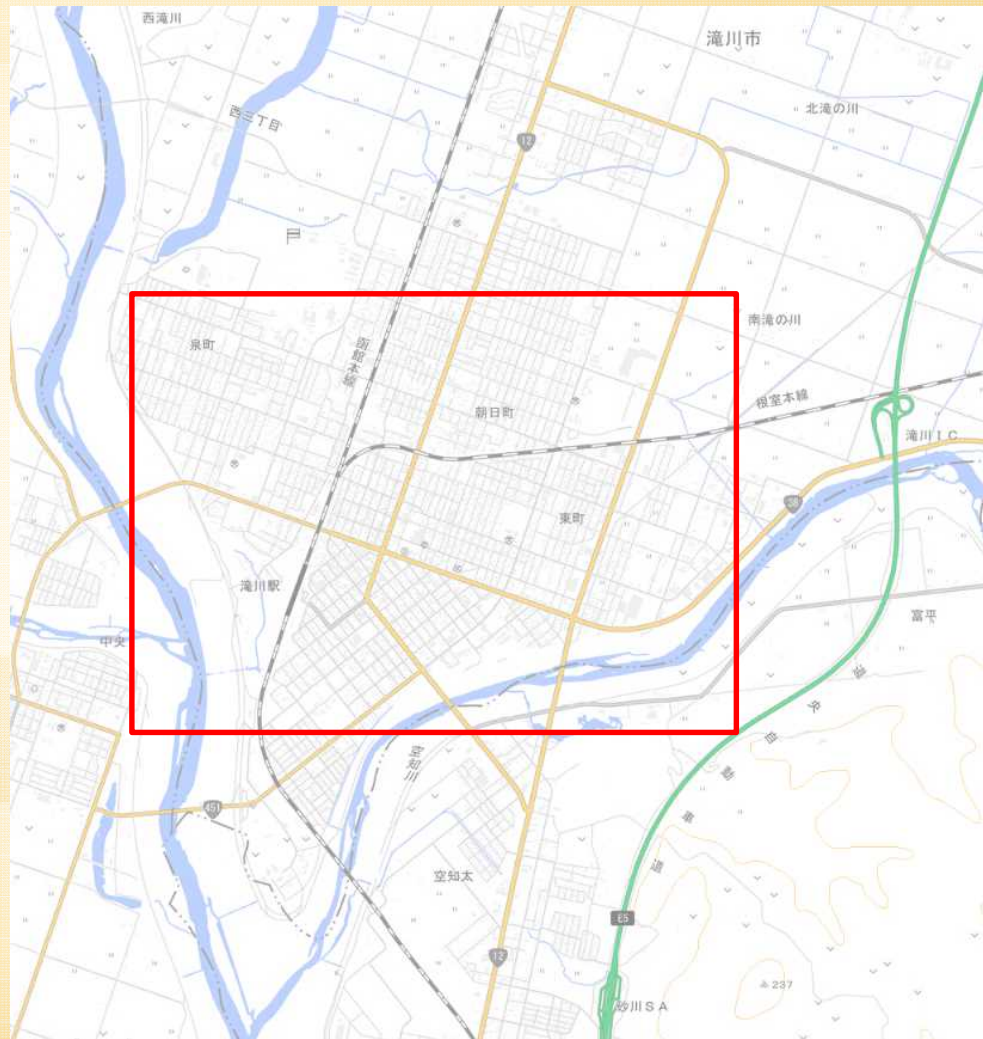
滝川市建設部都市計画課 小諸 将司

検討材料

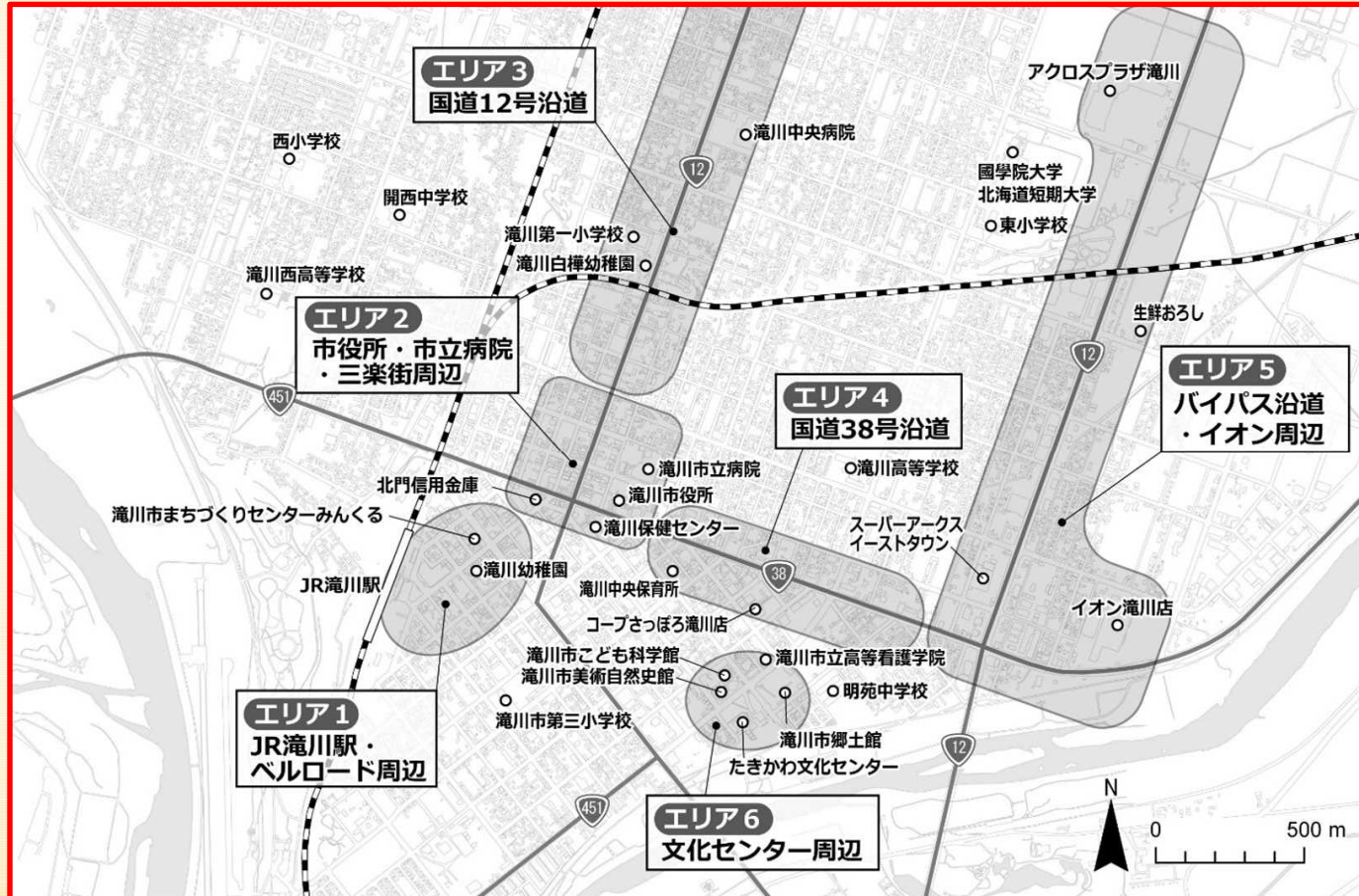
1. 中心市街地発展の経過 / 現状
2. これからのまちづくりの方向性

1. 中心市街地発展の経過/現状

検討エリア について



赤枠を拡大



中心市街地とは？



資料:滝川市中心市街地活性化基本計画

- ・中心市街地は、北海道を縦横断する国道12号、国道38号及び国道451号が交差し、JR滝川駅、バス乗り場を擁するなど交通の要衝として発展した。
- ・市役所、市立病院をはじめ、国や北海道の官公庁施設などの公共公益施設が立地し、商店街、飲食店街が形成され、市内だけでなく周辺市町からも多くの人が訪れて賑わっていた。
- ・モータリゼーションの進展や郊外型大規模小売店の進出、中心市街地内の大規模小売店の退店などにより、中心市街地の空洞化が進んだ。

中心市街地に対する過去の取り組み①

【都市機能の集積】

- (1) 図書館の移転
- (2) まちづくりセンターの改修
- (3) 観光国際スクエアの設置
- (4) 病院の建て替え
- (5) 公営住宅の新設
- (6) 駅前広場の再整備
- (7) 栄町3-3地区の再開発
- (8) 看護学校の移転

(1) 図書館の移転

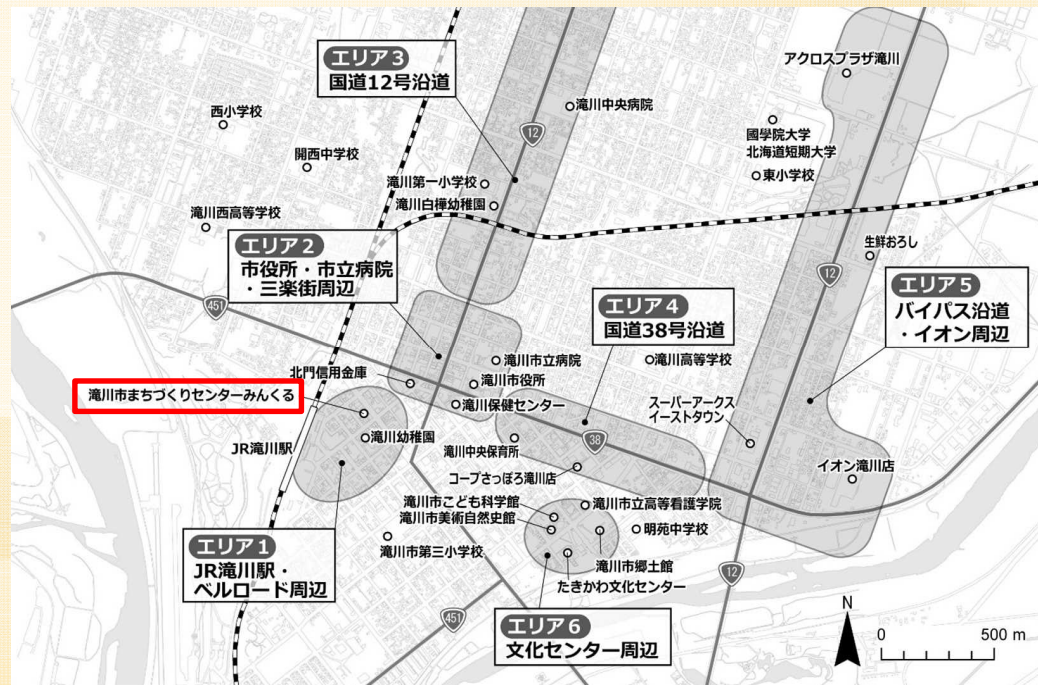
市街地のはずれに位置し、
老朽化により建て替えが
必要になった。
平成23年11月に市役所
の2階に移転。



(2) まちづくりセンターの改修

中心市街地をはじめとする地域の交流及びコミュニティ活動、活性化など様々な事業に取り組む市民活動の拠点。

中心市街地において誰でも気軽に集い交流を深めるための拠点となる魅力ある市民の施設として既存建物を活用し整備。



(3) 観光国際スクエアの設置

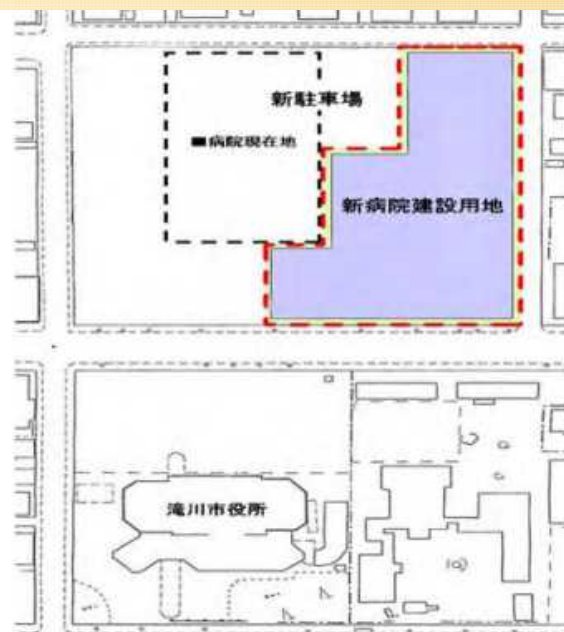
観光情報提供並びに地域国際化を担う拠点として、
滝川市役所観光国際課、たきかわ観光協会、滝川国際交流協会が「たきかわ観光国際スクエア」として旧ターミナルに移転。



(4) 病院の建て替え

滝川市立病院は、施設の老朽化、
駐車場不足が課題。

現在位置での建て替えは、市役所、
郵便局等の公共施設が集積する官
公庁地区の一角にあり、駅前から
続く商店街にも隣接していることな
ども踏まえ、福祉医療、行政サービ
ス、商業が集積されたコンパクトな
まちづくりを目的として建て替え。



(5) 公営住宅の新設

街なか居住を推進するためには民間投資による共同住宅を中心とした住宅の供給が必要不可欠であるが、行政の役割である公営住宅の供給を中心部居住の先導役として、滝川市営住宅栄町団地を建設。



(6) 駅前広場の再整備

交通結節点としての機能が十分ではなかったことや、長時間の路上駐車をはじめ、歩行空間が狭く、歩道上に自転車があふれ、駅舎内にもエレベーターが設置されていないなど、数多くの課題を解決するために再整備。



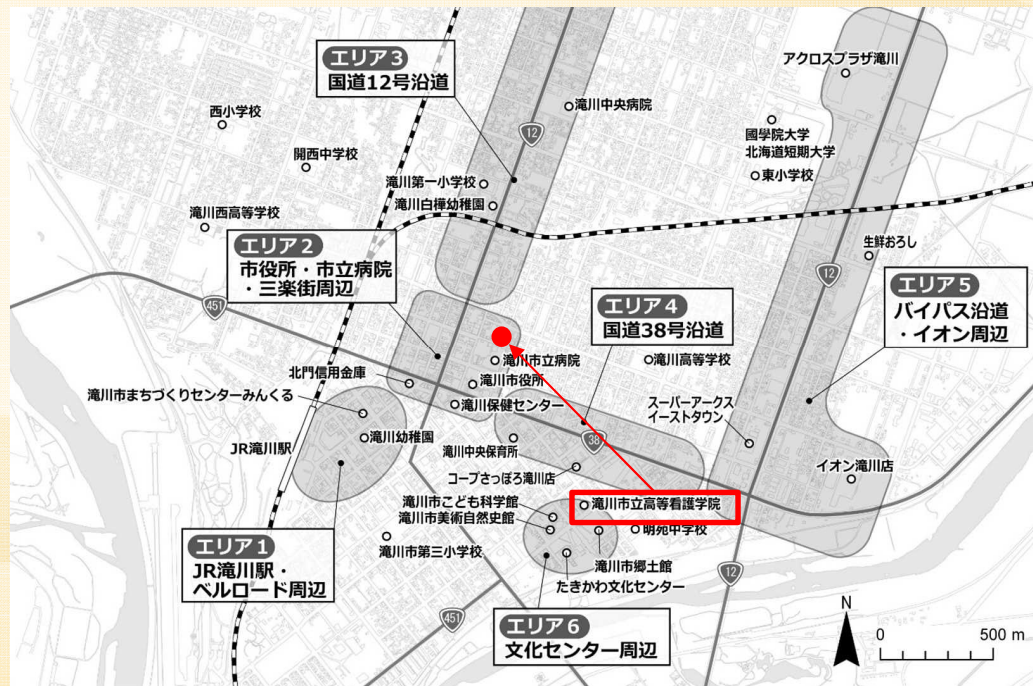
(7) 栄町3-3地区の再開発

駅周辺整備の進む広域交流拠点、市立病院の改築、市役所への図書館の移転等によって人々の利用が増加している公共公益拠点の有するポテンシャルを中心市街地に波及させるため、医療・高齢者福祉施設及び金融機関本店の2棟を建設。



(8)看護学校の移転

施設の老朽化が著しかったため、建替えに伴い、実習病院である滝川市立病院から徒歩1分の場所に移転。



中心市街地に対する過去の取り組み②

【商業活性化の取組】

- (1) 滝川市商店街振興組合連合会への補助支援
- (2) 店舗リノベーション支援事業による空き店舗の流通化を促進し新規出店を創出
- (3) 空き店舗の活用支援(拠点事業)

【賑わい・交流の創出の取組】

- (1) まちなか交流広場事業として補助支援を実施
- (2) 貸室事業や子育て事業の実施

取組の成果

中心市街地の現状
についてどう思うか

2. これからのまちづくりの方向性

市民アンケート調査結果(抜粋)①

改善の優先度が高い項目(改善度が高い上位10項目)

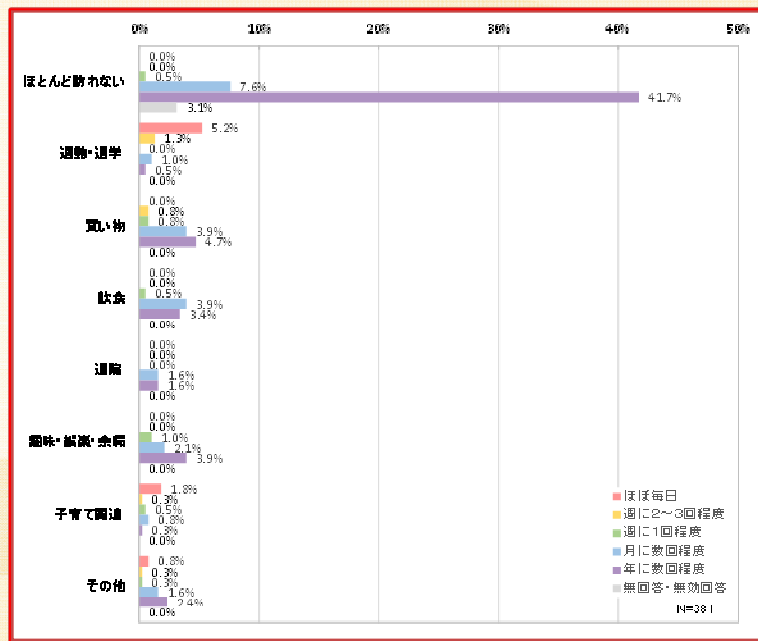
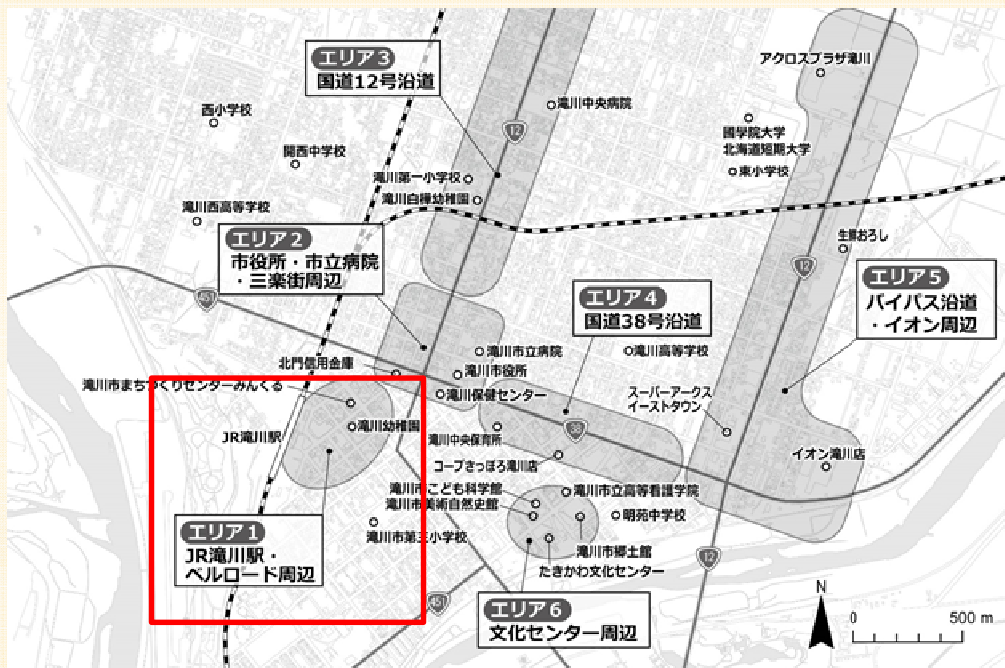
設 問	改善度	年代別集計		
		10～30代	40～50代	60代以上
除雪などの雪への対策	25.64	26.55	22.33	22.05
中心市街地の活性化	18.89	17.11	15.61	21.95
雇用の確保・拡大と労働環境の充実	13.45	9.96	11.92	14.53
計画的で健全な財政運営	13.27	14.18	10.43	12.70
妊娠・出産に対する支援の充実	12.01	18.73	8.09	6.91
医療体制の充実	11.53	20.80	11.86	5.64
いじめ・不登校の防止や相談機能の充実	8.40	8.65	7.27	10.62
地元企業の育成・活性化及び新規企業の誘致	8.16	2.36	9.19	12.81
保育サービスなどの子育てに係る支援や児童福祉の充実	7.40	14.78	6.12	3.75
空き家・空地対策	5.23	1.58	1.72	15.03

「中心市街地の活性化」は満足度が低く、重要度が高いため、2番目に改善度が高い

市民アンケート調査結果(抜粋)②

訪れる場合の「主な目的」と「頻度」について調査

(エリア1)



「JR滝川駅、ベルロード周辺」に訪れる人は少ない

市民アンケート調査結果(抜粋)③

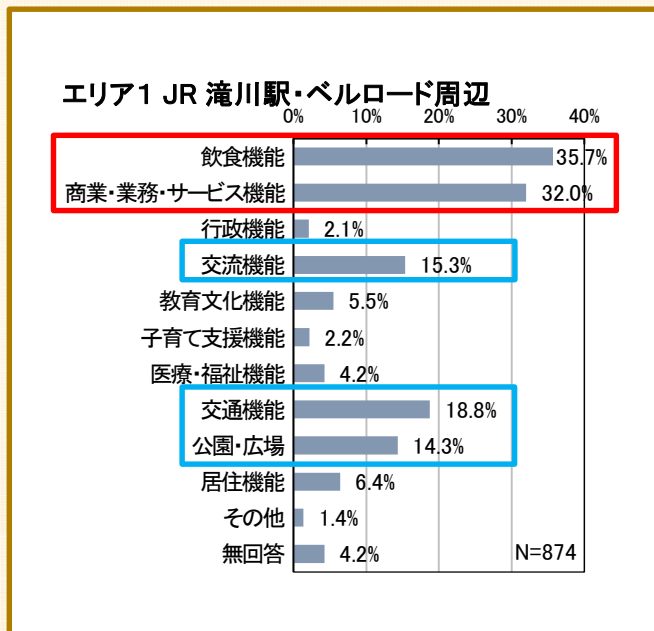
今後充実すべきエリア

設 問	回答数	割合
エリア1 JR 滝川駅・ベルロード周辺	565	64.6%
エリア2 市役所・市立病院・三楽街周辺	317	36.3%
エリア3 国道38号沿道	181	20.7%
エリア4 バイパス沿道・イオン周辺	353	40.4%
エリア5 文化センター周辺	207	23.7%
エリア6 その他	67	7.7%
無回答	58	6.6%
サンプル数	874	—

「JR滝川駅、ベルロード周辺」に訪れる人は少ないが、
6割以上の方が充実すべきと回答

市民アンケート調査結果(抜粋)④

特に充実を図るべき機能・施設



鉄道とバスの利用頻度

鉄道

設 問	回答数	割合
ほぼ毎日	10	1.1%
週1～2回	10	1.1%
月1～2回	51	5.8%
年数回	388	44.4%
利用しない	389	44.5%
無回答・無効回答	26	3.0%
計	874	100.0%

バス

設 問	回答数	割合
ほぼ毎日	21	2.4%
週1～2回	35	4.0%
月1～2回	65	7.4%
年数回	298	34.1%
利用しない	438	50.1%
無回答・無効回答	17	1.9%
計	874	100.0%

飲食、商業・業務サービスが高く、続いて交流、交通、公園・広場も高い
鉄道・バスの利用頻度は、約半数が「利用しない」となっており、「年数回」と併せると鉄道は88.9%、バスは84.2%とほとんど利用されていない状況

市民アンケート調査結果(抜粋)まとめ

「中心市街地の活性化」については、満足度が低く、重要度が高いため、改善度が高くなっている。

「JR滝川駅、ベルロード周辺」に訪れる人は少ないが、6割以上の方が充実すべきエリアとして期待している。

充実を図るべき機能・施設としては、「飲食、商業・業務サービス機能」が高く、続いて「交流」、「交通」、「公園・広場」が高くなっている。

訪れる主な目的として「通勤・通学」など公共交通の利用者が一定数いるものの、約8割～9割の方は、JR及びバスをほとんど利用していない。

中心市街地に対する(意見)

【市民アンケート調査】

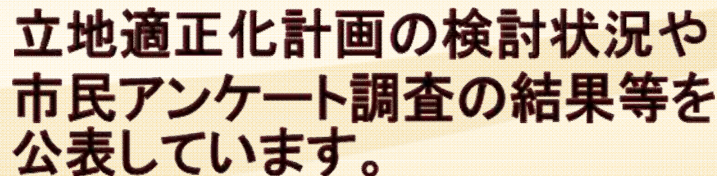
- ・商業機能での活性化
- ・広場、公園
- ・子どもの遊び場(屋内)
- ・駐車場
- ・休憩場所(JRやバスを利用する際に時間をつぶせる場所)
- ・高速バスの待合所改善
- ・居住を増やす etc...

【策定委員会での意見】

- ・商業施設が立地しても商売として成り立たない
- ・まずは中心市街地に人を住まわすことが先決ではないか
- ・駅前原っぱや芝生、公園などで良いのでは

【URL】

【QRコード】



滝川市の中心市街地が将来どうあるべきか

終